



市民との対話で  
身近な議会を目指す

# 地方創生

## 申年の市政を語る

総社市議会議長

### 荒木 勝美

昭和22年4月1日生まれ。68歳。1994年から旧総社市議を3期、新総社市議では4期目。昨年10月に開催された臨時市議会において、2005年以来2回目の議長に就任した。

総社市長

### 片岡 聡一

昭和34年8月2日生まれ。56歳。2007年の総社市長選で初当選し、2011年に無投票再選。昨年10月に行われた選挙で再選を果たし、3期目の市政運営をスタートさせた。



総社市を伸ばしていくため  
勇気ある決断を行う

### 地域で考える 自由枠交付金制度

**市長** 地域づくり自由枠交付金制度を平成26年度から始めていますが、昨年4月に、市内17地区全てでスタートすることができました。

**議長** 全地区がスタートできたことは、大変喜ばしいことだと思います。

**市長** 地域のお金は、地域の人たちが考えて使っていく。なかなかできることではありません。地域の方々感謝です。

**議長** しかし、各地域ごとの課題も多いのではないのでしょうか。見直しや改善は今後も必要だと思います。

**市長** 各地区の代表者を集め、協議会同士で意見交換を行う会議を昨年2回開催しました。引き続き議論を重ね、少しずつ改善していき、それぞれの地域の個性が輝くまちづくりが実現できればと考えています。

### 魅力溢れるまちへ

**議長** 東部エリアの長良地内にはGLPの2棟目が稼動し、また日本郵便株式会社と日本郵便輸

送株式会社の建設も予定されていますね。

**市長** 長良地内だけで、将来的に約2000人の雇用が生まれます。

**議長** 働き口が増えることは市民にとってもうれしいことだと思います。しかし、さらに企業誘致を推し進める上で一番の問題は、やはり農地の転用についてですね。

**市長** そうですね。岡山県立大学周辺の農地の転用については、引き続き、国や県に粘り強く訴えていきます。最大の課題です。

**議長** 市の実情にあった土地利用を検討する、「農地転用権限移譲等ワーキンググループ」を設置されていますね。議論を重ね、国・県との対応を考えていただきたいです。

**市長** 魅力あるまちづくりのために引き続き議論を重ねます。また、市の東エリアだけでなく、全市的に偏りなく政策や地域のインフラ整備を行っていくと思っています。

**議長** 行政の地域バランスというのは、とても大切なことです。行政の重要な責務ですね。

### 市民に身近な市政に

**議長** 議会で新たに取り組んでいきたいことと言えば、市民の意見を市政に反映させることを目的とした出前委員会を開催したいと考えています。市民のころへ議員が出向き、さまざまな意見を聴くことで、市政に反映させていきたいです。

**市長** 大変素晴らしいことだと思います。私も議員も、市民に選ばれた者同士。互いに市民と議論を重ねていき、議会と市執行部で一つのものを創っていかればと思います。

**議長** そうですね。1月31日には、議会フォーラムを開催します。また、従来から行っている議会報告会も、形を変えながら継続させ、議会に対する市民の理解を深めていきたいです。

**市長** 市民からの理解を得るためには、実行に変えていく姿を示すことが重要です。市民が行政に期待をもつてくれるような政策を行っていきます。

### 今年の抱負

**市長** 今年は「希望」をテーマに市政運営を行っていききたいと

思っています。痛みを感じている人や弱い立場にある人が「希望」をもてる温かいまちを目指し、既存の制度にとらわれない総社市の独自政策を進めていきます。

**議長** 今年のテーマは「一歩前進」ですかね。改革し続ける気概を忘れることなく、市民に身近な議会を目指していきたいと考えています。

**市長** 人口や企業、雇用が増えていくという流れを大きくしていく政策、そして市民から信頼されるような政策を、議会と共に取り組んでいきたいですね。

**議長** 議会と市執行部との関係で、大切なのは話し合いたいと思います。議論を重ねていけば必ず接点は見つかります。それは市民のためにもなると思います。

**市長** さまざまな政策を、議会と市執行部が同時に練り上げていく。その結果、すべての市民にとって住みやすいまちが創れるらいいと思います。今後も総社市発展のため、有意義な議論を重ねていきましょう。